

## 新年度のご挨拶

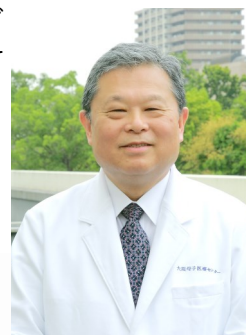
桜花爛漫の中で、本稿をしたためています。長かったCOVID-19の猛威もやっと一区切りつきそうですが、皆さまはいかがお過ごしでしょうか？とは言っても、医療機関はCOVID-19から解放されるわけではなく、感染対策は継続しますので、ご苦労は多くなるかもしれません。

当センターの今年度からの新事業を2件紹介いたします。

1つ目は『医療的ケア児支援センター』の開設です。大阪府からの委託を受けて開始するもので、医療的ケアを必要とするお子さんとご家族への支援に関する相談窓口となります。こちらは支援を担当する関係機関とご家族との調整等も含んでいます。初年度ですので、ご期待に添えるかと、不安もありますが、誠心誠意業務遂行させていただきますので、必要に応じてご利用ください。

2つ目は『大阪府難病診療分野別拠点病院』の指定を受けることになりました。大阪府においては、すでに大阪府難病医療推進会議が設置され、難病診療連携拠点病院、難病医療協力病院、難病診療分野別拠点病院が指定されています。しかし、小児分野を担当する医療機関はこれまでありませんでした。そこで、当センターが小児医療分野として指定を受けることになりました。この指定によって、日々の診療が変わるわけではありませんが、小児の難病に対してさらなる活動拡大に取り組んでゆく所存です。

大阪母子医療センターは常に求められる役割を担い、地域医療に寄与するべく努力してまいります。変わらぬご理解・ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



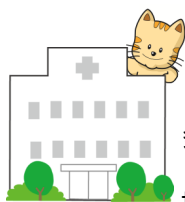
病院長 光田 信明

## 新病院整備事業について

当センターでは、南大阪地域の周産期・小児医療の基幹病院として妊産婦さんや胎児、新生児や小児患者さんに対する高度・専門医療を行っています。

また、研究所及び母子保健情報センターを設置し、母と子にかかわる疾病の原因の解明、診断、治療、予防法の開発及び母子保健に関する調査・研究に取り組んでいます。

\* \* \* \* \*



しかしながら、開院から40年以上が経過し、空調設備や給排水設備等の施設の多くが耐用年数を超え老朽化しているため、療養環境の維持に支障をきたしています。

狭隘な部署が多く、特にNICUでは、複数の高度な医療機器を装着する重篤患者さんへの対応においては感染症対策にも苦慮しております。

また、医療機能の高度化に伴う医療機器の占有スペース増大により、職員の動線や医療スペースも適切に確保できていない状態です。

個室についても不足しており、妊産婦さんや小児患者さんからの個室希望のニーズにお応えするのが難しい建物構造になっています。

そのため、今後も当センターの機能を継続し、さらに充実させるためには、速やかな建替え整備が必要不可欠です。当センター敷地内に、2029年度開設を目標に、新センターを整備する計画を進めているところです。

昨年度は、新センター建替えの方向性を定めた「基本計画」を策定し、今年度は次のステップとして、具体的な設計を固めるための「基本設計」に着手し、その後「実施設計」、建築工事等と順次作業を進めてまいります。

新病院整備に関する最新の情報については、順次、当センターのホームページに掲載していきますので、ぜひご覧ください。



## 基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

## 基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域と連携して、母子保健を充実させます。
- 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます。

NEW

周産期・小児感染症科 が新設されました



周産期・小児感染症科 部長  
野崎 昌俊

周産期・小児感染症科部長に就任いたしました野崎昌俊です。

昨今、感染症は単に治せばよいだけではなく、抗菌薬の選択、使用量、期間を体系的に管理することでより効果的な治療を行い、不必要な副作用防止や薬剤耐性に配慮することが重視されています。また、感染症を未然に予防し、拡大を防止することは、患者さんを守るとともに、社会の維持のために重要であることは、新型コロナウイルスの世界的な流行で身に染みて実感されたところです。

当科は全国的にも数少ない、周産期・小児領域を専門として、院内の感染症診療を包括的に行います。当センターの各診療科における高レベルな医療と協働して、診療体制のより一層の向上に寄与したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

※周産期・小児感染症科は院外からの紹介は受け付けておりませんのでご了承願います。

## 小児循環器科

今年度から小児循環器科の部長に就任いたしました青木寿明です。

2000年に関西医科大学を卒業し、大阪大学、大阪市立総合医療センター、近畿大学、大阪母子医療センターで循環器診療を行ってきました。萱谷太前部長の定年退職に伴い、後を引き継ぎました。

心臓は様々な臓器に影響を及ぼし、また影響を受けることから様々な診療科、部門とのチーム医療が不可欠です。チームのレベルアップを目指し、患者さんに安心、安全な医療を提供していきたいと考えています。

また世界はグローバル化、デジタルトランスフォーメーションへ発展しており、今までの母子センターの知識を生かしながら、時代の潮流に乗っていかうと思っています。

今後とも地域の皆さまの期待に応えられる医療活動を全力で展開してまいりますので何卒よろしくお願いいたします。



小児循環器科 部長  
青木 寿明

## 集中治療科



集中治療科 部長  
清水 義之

集中治療科の清水義之です。

私自身は小児外科の出身ですが、当センターのPICUは、もともと麻酔集中治療科の一部門として、術後管理を中心に麻酔科の先生方が礎を築かれました。現在は麻酔科の医師とともに、小児科出身の医師が多く活躍しています。

入室される疾患も術後管理症例に加え、内科系疾患(呼吸不全、脳炎やてんかん重積、敗血症など)も多く、本邦のPICUのなかでは人工呼吸管理数はトップクラスです。

我々の集中治療の能力、各診療科の専門技術と知識、そして看護師、臨床工学技士、薬剤師、理学療法士、管理栄養士など、多職種の知識と実践を合わせて患児の治療にあたっていきますので、よろしくお願いいたします。



当センターでは、病氣と闘う子どもたちの未来のために、子どもを対象とした治験を多く実施しています。



日本小児医療施設協議会の小児治験ネットワークに加盟し、全国ネットで小児治験推進の活動を行っています。

小児治験ネットワーク また、加盟施設の治験コーディネーター(CRC)と協力し、小児治験に精通したCRC育成のための研修会開催や、子ども用の説明文書(アセント文書)の作成にも取り組んでいます。

新生児期から小児にも使える安全な薬を開発するためには、その年齢の子どもを対象とした治験が不可欠で、参加いただく小児患者さんやご家族の協力のおかげで成り立っています。

周産期・小児の専門病院である母子センターでしかできない治験も多くあります。希少疾患や、参加条件が難しい治験も多くあるため、近隣の医療機関の先生方には、治験症例の紹介依頼で連絡をさせていただくこともあります。どうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

病気で苦しむ子どもたちの治療の選択肢が増えることを願って！  
子どものための医療を未来につないでいきましょう！



詳しくは治験推進室のホームページをご覧ください。  
問い合わせ先：治験推進室(CRC山崎)



CRCのユニフォーム

### 学校での性教育 (看護部の取り組み)

当センターでは助産師が地域の小・中学校、高等学校などで性教育の出前授業を行っています。

教育現場からの要請を受けて、児童や生徒に「いのちの大切さ」「自分のからだを大切にすること」「おつきあいのこと」などをわかりやすくお伝えしています。コロナ禍でも、各教室にオンライン配信するなどの工夫をして継続してきました。

これからも地域の子どもの心身の健康を守るための一助となるよう活動を続けていきます。

患者さんがお手持ちのスマートフォンを利用して外来の診察状況を見ることができる

モバイル版患者案内表示システム【Sma-pa】が、

2023年2月より、会計待ち番号表示でも利用できるようになりました。



- 同じアプリを利用して、診察待ち番号、会計待ち番号の2種類を確認することができます。
- 患者さんに待ち時間を利用した外出やお買い物など多くの方にご利用いただけるようご案内しています。

ダウンロードしてご利用ください。



Available on the App Store

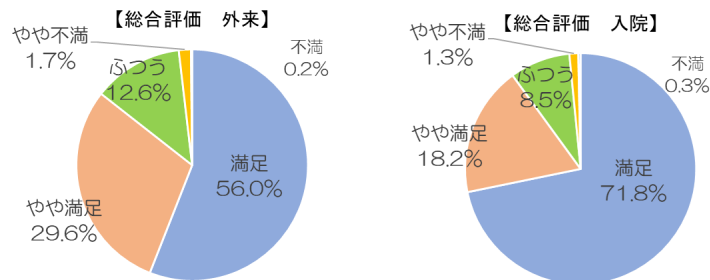


ANDROID APP ON Google play



## 患者満足度調査の結果報告

2022年11月に患者満足度調査を実施しました。総合評価では、85%以上の方に満足(やや満足を含む)していただけたという結果でした。開院から40年が経過し、ハード面での満足度は若干低くなっていますが、医師や看護師の対応については、高い満足度を維持できていました。今後も患者さんにとって安心安全な医療を提供できるよう努力してまいります。



## 地域連携アンケートのご意見への回答

2022年9月に実施した「地域連携アンケート」で以下のご意見をいただきました。

整形外科の予約が月曜日でないと言った予約がとれないので、せめて2回/週ほどにしていただけたらと思うのですが。

ご不便をおかけしております。整形外科では、申込時にすべての初診申込書を部長が確認し、緊急性のある患者さんは初診枠に限定せず特別に対応しておりますので、ご理解くださいますようお願いいたします。



## AYA week 2023のイベント企画に今年も参加しました！



AYA Week とは、「若い世代とがん」の今を世の中に発信していくイベントです。

AYAweek2023では、「つながる」をテーマとし、3月4日(土)～3月12日(日)の期間、さまざまなイベントが全国で開催されました。当センターではAYA week2023 のイベント企画として、『小児・AYA世代がん経験者の長期的な健康管理について考える』をテーマにしたWeb研修と応援フラッグに参加しました。



## 初診患者さん用に動画作成しました

当センターを初めて受診される患者さん用(小児部門)に、受付から会計までの流れがわかる動画を作成し、ホームページに掲載しました。

来院される前に確認していただくことで、少しでも受診に関する不安を軽減できればと考えています。



## オンラインで寄附金の受付

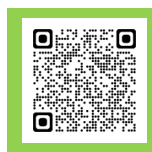


現金持参、口座振込に加えて、ホームページからオンラインで寄附をお申し込みいただけるようになりました。クレジットカード決済により、24時間365日いつでもご寄附いただけます。

患者サービスの向上や病院の建て替えなど、皆さまからのご寄附は当センターがより良い病院となるための大きな力となっています。どうぞよろしくお願いたします。



お申し込みはこちら ▶



## 交通のご案内



診療時間：平日 9時～17時30分

予約受付時間：平日 9時～19時

地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪母子医療センター 患者支援センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町840

【初診専用】 TEL：0725-56-9890 (直通)

FAX：0725-56-5605

【その他】 TEL：0725-55-3113 (直通)

FAX：0725-56-7785

【医師相談窓口】 E-mail：chiren@wch.opho.jp

医療対象者  
ホットライン  
(※24時間受付直通)

PICUホットライン  
0725-56-1070

小児がん・白血病  
ホットライン  
0725-57-7677

心疾患ホットライン  
0725-56-3833

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。